

# 地域支配の拠点？「尾張城」

大河ドラマをきっかけに明智光秀が注目されていますが、瀬戸内市出身の宇喜多直家は登場するのでしょうか？

## 城の位置

どの様に描かれるのでしょうか？ 気になるところです。さて、ドラマでも描かれていたのですが、当時の武将たちが拠点としていた「城」は、一般的にイメージする石垣の上に天守や櫓が建つものではなく、土塁や木柵などを設けた城でした。

中央公民館・市民図書館から300mほど東の集落の中に城稲荷神社があります。この神社を中心とした場所が「尾張（治）城」跡とされています。

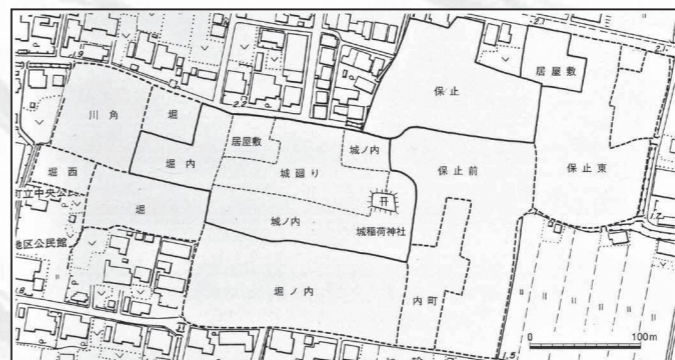


尾治城跡石碑

山の尾根に築き、急崖で敵の侵入を防ぐ山城とは異なり、千町平野に立地し、川や泥田などを利用して守りを固めた平城だったのででしょうか。このような城は、一般的に武将の居館とされ、日常は地域支配の拠点として機能していたと考えられています。

地名に残る城の跡  
尾張城の辺りには「城ノ内」「城廻り」「城ノ前」「堀」「居屋敷」「保止」という小字があり、城や居館が想定できる地名が残っています。

記録に見る「尾張城」  
いずれも江戸時代の記録ですが『備陽記』『備陽国誌』『吉備温故秘録』に尾張城の記載が見られます。城主は不明とされていますが、鷲見越中という人物が居たともあり、後に宇喜多氏の家臣である長瀬七郎が居城としたともあります。はっきりしない



尾張城跡要図（『邑久町史考古編』より転載）

記載を見ると江戸時代よりもずっと前に城としての機能はなかったようです。また、天保8（1837）年の『尾張村神社帳』は、「祠官鷲見千座」が記したもので、城稲荷神社の項には、先年鷲見越中守住所之時」とあり、何らかの関係があるのかもしれません。

【参考文献】  
『邑久町史』考古編・史料編（上）・通史編  
が拠点としていた場所なのかもしれません。平城（居館）として整備された尾張城は、室町時代や戦国時代の動乱の中でどのような姿だったのでしょうか？ 城稲荷神社周辺を散策し、歴史ロマンに思いをはせてみませんか。

## 健康ライフ

問 健康づくり推進課  
☎0869-26-5962

## ひきこもり

～正しい理解と支援のために～

### ひきこもりとは？

「学校や仕事に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6カ月以上続けて家庭にとどまり続けている状態」のことを指します（厚生労働省の定義より）。



### 本人の気持ちは？ 周りの人はどうしたらいいの？

ひきこもっている人の多くは、自分に自信が持てず、物事を悲観的に考えがちです。

また、社会や家庭の中で一定の役割を果たせず、家族に負担をかけることを心苦しく思いながら、なかなか行動を起こせない気持ちを理解してほしいと思っています。



周りの人たちは、ひきこもりの人に対して、まずは本人の気持ちを理解することが大切です。

本人は、誰よりも苦しい思いをしていますので、気持ちに寄り添って、ひきこもり状態を非難しないことが大切です。

### 自分たちで解決できないときは専門の相談機関へ

<ひきこもりについての相談は・・・>

●瀬戸内市生活相談支援センター  
▷日時 月～金曜日  
午前8時30分～午後5時15分

☎0869-24-7714

●こころの健康相談（要予約）  
▷日時 毎月1回 午前9～11時  
※臨床心理士による相談

☎0869-26-5962

●精神保健福祉相談（要予約）  
▷日時 毎月1回 午後1時30分～午後3時  
※精神科医による相談

☎086-272-3934

★プライバシー保護には十分配慮します。  
★家族や関係者からの相談も受け付けています。自分だけ、または家族だけで抱え込まず、お気軽にご相談ください。